

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)  
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : 土木と学校教育	
日付 : 6月 7日 (土)曜日, セッション時間 : 10:00~	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 松村暢彦 (大阪大学大学院工学研究科)	
討 議 内 容	<p>セッション全体 :</p> <p>ポスターセッションで実施した。小学校から公共的観点を盛り込んだ学習プログラムの実施プロセス、今後の展開についてディスカッションされ、実践的な取り組みとそこから得られる知見の重要性を確認した。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (360)宮地岳志 ((株) バイタルリード)</p> <p>(質問) 総合的な学習の時間小学校へのアプローチはどうしたのか?</p> <p>(回答) 自治体から小学校の校長へ直接アプローチした。次年度の学習カリキュラムを決定する時期(本件では2月)に、回数、時限を明記した内容を持って交渉した。</p> <p>(コメント) 児童からの意見を目に見える形で実現することで、総合的な学習の効果が高まる。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (361)藤井美智子 ((社) 北海道開発技術センター)</p> <p>(質問) 帯広の事例について、授業に関わる費用負担はどうしているのか?</p> <p>(回答) (独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の補助事業と連携して実施しており、授業自体に費用は発生していない。バス試乗は事業者の有志により実施。</p> <p>(質問) 札幌圏と帯広市では効果にどのような違いがあるのか?</p> <p>(回答) 札幌圏と帯広市では授業の内容が異なる為、効果の比較はできない。効果に関する一例として、出前講座でバスの試乗体験を実施した帯広市では「バス乗車のお試し券」が未実施校にくらべ、約5倍の利用が見られ、効果が伺えた。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名 (所属) : (362)松村暢彦 (大阪大学大学院)</p> <p>(質問) 社会基盤とは何を示すのか?</p> <p>(回答) 道路ネットワークを指します。道路ネットワークと土地利用の関係性を反映しています。</p> <p>(コメント) 工場と地域の関連性を学ぶのは地域に対する愛着を育むきっかけになる。</p>